



タイ高等教育科学研究所イノベーション省は、科学技術振興を目的とした「タイ科学技術博覧会」を、今月9日から17日まで、バンコク市内のクイーンシリキット国際展示会場で開催した。科学、農業、自然、宇宙、ロボットなどのテーマに分かれた展示の多くは、タイ政府やタイの有力企業によるものであるが、海外からは日本をはじめ中国、韓国、マレーシア、ドイツ、フランス、デンマークが参加した。

複数の学術研究機関で構成された日本パビリオンを訪ねたが、京都大の工夫が目をつけた。テーブルの上には、水、カップヌードル、お金(模擬紙幣)、お菓子、ごみ袋、IDカード、薬、はさみ、ナ

タイの科学技術博覧会

日本の災害経験を発信

イフ、トイレットパーパー、携帯充電器、おむつ、ミルク、衣服などが置かれ、災害時に持ち出すかばんに何を詰め込むのか、ブースを訪ねた子供たちに選んでもらい、さらに生活用品を詰め込んだカバンを持ち上げその重さを体感させていた。

子供たちに3月の地震をきっかけに、自然災害や、7月に起きたカンボジア国境の紛争による地域住民の避難から、防災意識を高める狙いがあると、同大の縄田農学博士が教えてくれた。

様子を見てみると、子供たちの多くは、IDカード、水、懐中電灯、携帯充電器、薬、ナイフなどを選んだ。お湯が必要となるカップ麺や、ごみのポイ捨ても多いことから、ごみ袋を選ぶ子供は少なかった。

一方、交流サイト(SNS)が普及しているタイでは、携帯充電器は欠かせないモノと感じた。



クイーンシリキット国際展示会場
Ⅱバンコク

バンコクから北へ車で3時間、ナコーンサワン県の高校生ピムさん(18)Ⅱ写真右端Ⅱは「学校の建物は3階で、地震の時は揺れを感じなかったが、防災意識は大切」と、また引率していた先生も「地震が起きた後は、避難訓練を実施した」と話してくれた。

タイの災害と言えば、洪水であるが、例年、浸水エリアは特定している。こうした地区では、住居が高床式で、手こぎボートが各家庭にある。自然災害でも事前に準備できることもあれば、地震のような予知が難しい災害もある。学校、企業での防災教育は、防災意識を高め、有事の際の強みとなることは間違いない。日本は防災先進国であり、さまざまな経験から、人の命に関わることに關して、情報を発信していくことの大切さを感じた。

(岐阜信用金庫バンコク駐在員事務所長 高橋英孝)